

特集 ドコモの進める戦略

第三章 未来のケータイ

手のひらに明日をのせて。

このブランドスローガンは、手のひらに乗る小さなケータイ端末を通じ、ユーザーが望む価値を提供し続けていくという私たちの決意を宣言するものです。その実現に向けて私たちは着実に歩みを進めています。人びとのコミュニケーションとドコモの未来を築き上げていくために。



未来のケータイ

ドコモは、人と暮らしの未来と、そのなかでケータイが果たしていくであろう役割を明確に思い描くとともに、その具現化を通じ、新たな成長に向けた道筋を一步一步確実に歩んでいきます。

■ **ドコモが捉える変化の潮流** ドコモは、常に人びとの暮らしとケータイの未来を見据えながら、将来に向けた準備を行っています。では、社会や人びとの暮らしは将来どのように変わっていくのでしょうか。ドコモは、「融合」をキーワードとした変化が起こっていくと考えています。

現在、電子機器の分野では、従来の産業の垣根を越えて機能集約が進んでいます。ゲーム機を例にとると、近年登場しているゲーム機の多くには通信機能が搭載され、オンラインゲームに留まらず、インターネットへのアクセス、ワイヤレス通信を用いた位置情報検索機能など、用途がますます広がりを見せています。今後は、電子機器の多くが通信機能を備えるようになることで、製品や産業の壁が取り払われるとともに融合が進み、そこからまた新しい価値が創造されていくとドコモは考えています。

ドコモはもうひとつ大きな変化の潮流を読み取っています。それはパーソナル化の進展です。近年、機械が過去の行動から個人の好みを学習し、一人ひとりの嗜好に合ったメニューを提案するといった機能がテレビチューナー等で導入されていますが、こうした潮流は、今後、更に加速していくとドコモは考えています。

■ **ドコモが思い描く携帯の未来像** そのような変化のなかで、ケータイはどのような進化を遂げ、どのような役割を果たしていくのでしょうか。未来のケータイは従来の携帯電話の枠に留まらず、放送や家庭電化製品といった従来は別々のものと捉えられてきた市場と融合し、一人ひとりのライフスタイルに合わせパーソナル化の度合を深めながら進化を果たしていく。そう私たちは予想しています。当社のホームページにある「ドコモが描く未来の世界」で描かれている世界がそれです。そこで示されているような生活の実現は、まだ遠い未来の話かもしれません。しかし、私たちは、その実現に向けて明確な戦略を立て、準備を着々と進めています。具体的な取り組みを思い描くいくつかのケータイの未来像とあわせてご紹介します。



「北斎の滝まで」



「モバイルライフストーリー」

出典：当社ホームページ 「ドコモが描く未来の世界」
(<http://www.nttdocomo.co.jp/corporate/about/future/>)

ケータイの未来像

Case 1

携帯電話が利用できるエリア・シーンは更に拡大していく。そして機能は更に高度化し、生活必需品の機能はすべて携帯電話に集約される。

このような世界が実現すれば、携帯電話は計り知れないほど大きな利便性を人びとの生活にもたらしていくでしょう。例えば、現在すでに「おサイフケータイ」は買い物の決済で利用されていますが、将来はレジを通過せずに専用のゲートを通るだけで、携帯電話がゲートと通信し、携帯電話に搭載されたクレジットカード機能で支払が完了するようになる、といったことが可能になるかもしれません。また、個人認証機能を持った携帯電話がオフィスや空港でのセキュリティチェックを行ったり、外出先から携帯電話を使って自宅の家庭電化製品を遠隔操作するといったことも可能になるかもしれません。

このように、携帯電話の用途が拡大し人びとが生活していくうえでの必需品としての地位をますます高めていくことは、ドコモにとって一人ひとりのユーザーとのより深い関係の構築につながります。そしてそれは、携帯電話事業と周辺事業との大きなシナジーを生み出していくことを意味し、ドコモが進める非トラフィック分野での収益拡大も大きく前進することになると考えています。現在、ドコモが進めている携帯電話の「生活インフラ化」は、こうした未来の実現に向けたバックボーン確立のための取り組みです。

また、携帯電話の用途拡大に向けた社会インフラの整備も着実に進めています。近年、積極的に進めているテレビ局やコンテンツ会社への出資・提携によるサービス・コンテンツの強化、鉄道会社や主要コンビニエンスストア、スーパーといった企業との連携による「おサイフケータイ」決済端末の設置場所拡大などは、こうした大きな文脈のなかで読み解くことができます。

私たちは、思い描く世界の実現に向けて着実に足がかりを築き続けているのです。



あらゆるものに通信機能を有するICタグが付けられ、ウェアラブル端末を介して、トレーサビリティシステムと通信、いつでもどこでも商品の製造・生産履歴を確認できる。また、専用のゲートを通るだけで、携帯電話とゲートが通信し、買い物は完了する。
「モバイルライフストーリー」より



ゲートのセンサーが個人の特徴を捉え、オフィスインフォメーションと通信することで個人を認証。オフィスのあらゆる情報がウェアラブル端末を通じて入手できる。
「モバイルライフストーリー」より

ケータイの未来像

Case 2

携帯電話は、インターネット上などにある情報の取得と現実の世界での利用との橋渡しの役割を担い、今までにない新しいサービスを生み出すことで、人びとの生活をますます豊かにしていく。携帯電話の「モバイル」という特性は、新たなサービスやビジネスの価値の源泉になる。

人が機械に合わせるのではなく、機械が一人ひとりのライフスタイルに合わせて何かをしてくれる。そのような世界が携帯電話でも実現していくとドコモは考えています。例えば、あるユーザーの過去の行動履歴や嗜好、位置情報などをもとに、その人に適した情報やサービスを提供することも実現可能となっていくでしょう。ある日、久々に定時で仕事を終え、会社帰りに携帯電話を開くと疲労回復に役立つ情報を携帯電話が紹介してくれる。あるエリアに行くと、その人の嗜好に合った



ウェアラブル端末と病院が定期的に通信、血圧、体温など、主治医が常に一人ひとりの患者の容態を把握できるだけでなく、遠隔地からの送信、薬の処方などが可能になる。「モバイルライフストーリー」より

その地域限定のお勧め情報を提供してくれる。このように、全く新しいサービスが次々と生み出され、人びとの生活はより便利で豊かなものになっていくと私たちは考えています。

そのような世界が実現すれば、携帯電話の利用シーンの拡大や新たな価値創造・イノベーションの実現を通じ、ドコモは新たな収益機会の創出が実現できると考えています。

サービス実現のためには、サービスに適したインターフェイスや機能を持つ携帯電話端末の開発から、ネットワーク、コンテンツまでの一貫した仕掛けが必要になります。それら一連のバリューチェーンを束ね影響力を行使できるドコモは、すでに経済産業省の「情報大航海プロジェクト」のもと、先にお話したような世界の具現化に向けて着々と準備を進めています。

私たちは、思い描く世界の実現に向けて着実に足がかりを築き続けているのです。



人工知能、GPS機能を搭載、個人の好みを学習したコンシェルジュがガイド、モニタリングすることで、子供でも安心して一人旅ができるようになる。「北斎の滝まで」より



■ **ケータイの未来を支える基盤—ネットワークの高度化** 現在、ドコモは、近年の通信速度の高速化や動画等、コンテンツの充実を背景とするネットワークの快適性に対するニーズに応えるために、ネットワークの高度化に取り組んでいます。そしてそれは、これまでお話したような新しい世界が創造されていく過程で高まりを見せると予想される、より高速で快適なネットワーク環境に対する潜在的なニーズに応えるための長期的視野に立った取り組みでもあります。

Super 3G (LTE) や、その先の第4世代のネットワーク (IMT-Advanced (4G)) といった、ドコモが実用化に向けて取り組む次世代通信規格が実現すれば、私たちが思い描くケータイの未来が現実のものになっていくと考えています。

■ **ケータイと「暮らし」の未来の創造こそ、ドコモの成長の道筋** これまでケータイと人びとの「暮らし」の未来像をお話してきましたが、それは決してテクノロジーの進化が主導していくべきものではないとドコモは考えています。常に人びとの暮らしを起点として、潜在的なニーズを掴み、それをかたちにしていくこと。これが実現へ向けたドコモのアプローチです。そしてこれこそが、ドコモが今後も成長を果たしていくための道筋だと考えています。ドコモには、その実現に向けた確固たる基盤—実現に向けた未来像と戦略、戦略遂行の裏づけとなる高度な技術基盤、強固な財務基盤、圧倒的な顧客基盤—があります。なかでも、5,300万人という膨大な顧客基盤は、サービスを普及させるドライバーであり、社会に大きな変化を与える力の源泉です。この最大の競争優位を更に強固なものとしていくために、ドコモは、一人ひとりのお客様の顧客満足度の向上を徹底して追求していきます。